

研究で陥りやすい“わな” —テーマの設定について—

太田 祐子（東京女子医科大学看護学部）

臨床看護師の視点で、初心者が研究を行うときのワンポイントアドバイスを述べます。

1. 既存の知識を活用しよう！

臨床の看護師は、研究成果を「活用する」ことが大切。研究を活用して、ケアの実践を直接、向上させて行く実行力・機動力が期待されます。始めから「研究をする」ことにとらわれ過ぎないようにしましょう。

2. テーマを温めて吟味しよう！

日々の実践の中から、研究となりうる「疑問」を引きずりながら、解決方法を文献検討等で探ってみましょう。その中でそのテーマが、エネルギーをかけて取り組む価値のあるものかじっくり考えましょう。

3. テーマは一つにしぼろう！

例えば「外来で補完・代替療法を受ける患者さんの受診行動—QOL向上を目的とし、補完・代替療法に対する期待や、セルフケアへの関心—」には複数のテーマが混在しています。「受診行動」「QOL向上」「期待」「セルフケアへの関心」等々。しかし複数のテーマではどっちつかずの研究になってしまいます。

4. 一度決めたテーマに集中しよう！

テーマは気をつけていないとぶれてくることがあります。例えば、看護師の学習へのモチベーションに関するテーマで面接データを検討しているうち労働環境の問題が目に入り込み、いつしか労働環境の問題に自分の関心が行き過ぎてしまう等ということが起こり得ます。一度決めたテーマから目をそらさぬよう、自分のテーマ・目的などをいつも掲げておく等の工夫をしましょう。

研究にはこうした明確な取り組みが期待されます。十分に留意したいですが、一方で完成度はともかく、現場で真摯に取り組んだ研究は、他の人と共有したい研究であり、一つの現象を記述する価値のある研究だとも思います。従って、取り組みたいテーマを引きずって温め吟味したのちに絞り込んで実際に取り組み完成させた研究は宝物です。しっかりやり遂げて次の課題を見つけましょう。そのためにも看護の仲間に研究成果を問う機会（学会発表や論文投稿等）を作ってもらえたらと思います。
